

単元名 7 価値を語る 一文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 用言の活用形の種類と活用の種類について、語例を基に理解することができる。
 (3) 今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとする。

標準的な展開例

11210222_001

| 学 習 活 動 | 留 意 事 項 など |
|--|---|
| <p>1 教材文(p.187)を読み、動詞の活用について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「活用」について復習する。 「走る」の活用を確認し、本時の学習課題をつかむ。 ★「歩く」「笑う」「起きる」「食べる」について、活用を考えよう。 活用表の形式で、それぞれの活用を考える。 「2 用言の活用」(p.239)を参考に、動詞の活用を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 六つの活用形 語幹 活用語尾 活用の種類 音便 カ行変格活用、サ行変格活用の活用を理解する。 「練習問題」(p.240)に取り組む。 <p>2 形容詞、形容動詞の変化の仕方と種類を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 ★形容詞と形容動詞はどのように活用するのか考えよう 形容詞の活用について知る。 形容動詞の活用について知る。 「形容詞、形容動詞の活用」(p.241)を見て、活用の確認をする。 形容詞の音便について知る。 「美しい」「自由だ」(p.241)の表を完成させる。 「平和だ」と「平和+だ」の違いについて知る。 「練習問題」(p.241)に取り組み、動詞の活用との違いを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「活用」(p.238)を読み、活用とは「後に続く言葉や文中での働きによって語形が変化すること」であることを復習する。 「挿絵の吹き出し」(p.187)を読ませる。 活用表をプリントして配布するとよい。 活用表のプリントにまとめられた動詞の変化の規則性を考えさせるとよい。 活用する形の分類を「活用形」、変化しない部分を「語幹」、語が変化する部分を「活用語尾」ということを、表を使って説明する。 「見る」「着る」など、2音の動詞は語幹が取り出せないものもあるので、気を付けさせる。 <p>【評】動詞の活用の種類を見分ける活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した動詞の活用について、想起させるとよい。 「活用表」(p.241)から、「かわいい」の語幹と活用語尾を空欄にした学習プリントを作成し、教科書を閉じた上で、一つ一つ説明しながら埋めていくとよい。 活用表(p.241)から、「静かだ」の語幹と活用語尾を空欄にした学習プリントを作成し、教科書を閉じた上で、一つ一つ説明しながら埋めていくとよい。 形容動詞の「元気です」について、補足説明をしておく。 「おはようございます」「ありがとうございます」「おめでとうございます」など、身近な言葉にあることも触れる。 形容詞や形容動詞で、活用という点ではそれぞれ一通りしかないと理解させる。 <p>【評】形容詞と形容動詞の活用の違いを理解して、活用表を完成させる活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「平和だ」以外にも、「自由だ」「健康だ」などがある。 ①活用の種類が一つ、②50音図の行や段とは無関係、③命令形がない、④連用形に「ない」が接続する、の4点を整理して気付かせたい。 |

【 備 考 】

社会生活で求められている表現の多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠に注目して論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える根拠としての具体例などの付加的な部分などから構成されている。文章を読んだり、書いたりする場合はもちろんのこと、話し合う際にも、議論の中心となる論点を明確に捉えておくことは必要である。ここでは、論点を明確にすることを通して、読んだり書いたり話し合ったりしながら、考えを深めていく学習をする。